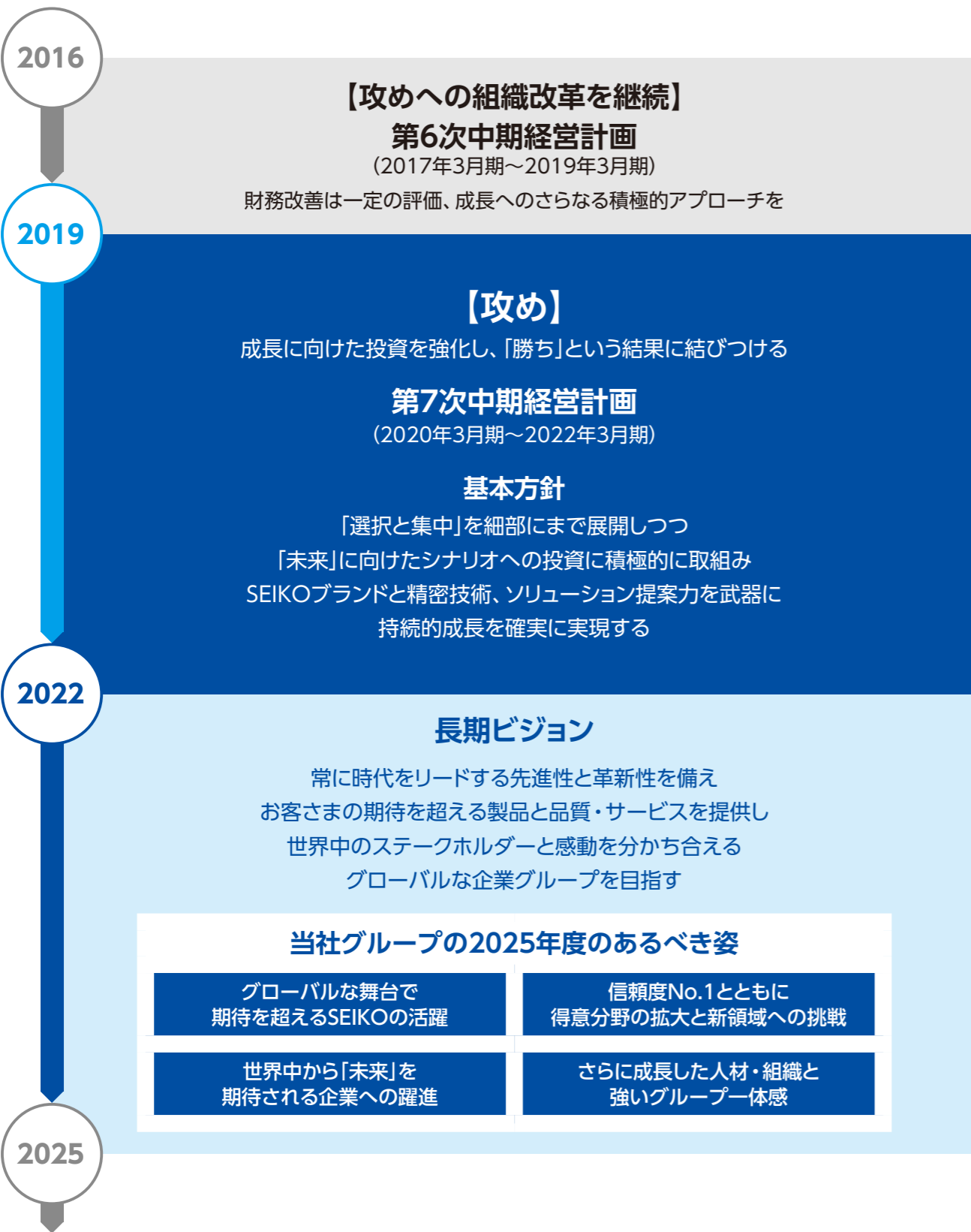


中期経営計画

グループスローガン「時代とハートを動かすSEIKO」を踏まえた「長期ビジョン」の実現に向けて、2019年度を初年度とする第7次中期経営計画を推進しています。



第6次中期経営計画 振り返り

収益力の強化と成長への投資

- 初年度以降のウォッチ世界市場での普及価格帯の低迷
- グローバルブランドを中心に高価格帯ウォッチへのシフトを加速
- 海外ブティック・Eコマース取組み強化
- 電子デバイス事業の収益力は向上
- システムソリューション事業の収益性の強化は前倒し達成

経営基盤の強化

- 自己資本比率(35.0%以上)
- Net有利子負債(750億円以下)
- 3期連続75円配当

いずれも中期経営計画目標達成

第7次中期経営計画 数値目標

	2019年3月期 実績値	2022年3月期 目標数値
売上高	2,472億円	2,850億円
営業利益	93億円	142億円
親会社に帰属する当期純利益	92億円	125億円
自己資本比率	36.0%	40%
ネット有利子負債	721億円	概ね現状どおり

目標達成に向けた具体的な取組み

ブランディング戦略	●中長期視点で企業ブランド価値向上のための投資を継続	P.52
人材戦略	●多様な価値観を持った人材が生き生きと働くことができる環境を整備し、「採る」「育てる」「活かす」の好循環により、グループの持続的な成長を図る	P.54
財務戦略	●「攻め」の期間を支える営業CFの創出、バランスのいい投資CF、コストを抑えた財務CF、「勝ち」を実現させる投資管理の徹底 ●利益の積み上げによる自己資本比率の継続的改善(40%へ)、安定配当の維持	

各セグメントの取組み

ウォッチ事業	●グローバルブランドを成長エンジンとし、戦略を加速させ、非連続を	P.36
電子デバイス事業	①匠・小・省の技術をさらに進化させ、得意分野、成長市場分野での重点製品ポートフォリオの転換 ②新成長分野への投資実行と管理の強化	P.40
システムソリューション事業	①事業の持続的成長と信頼性向上 ②多角化による環境に強い事業構造と高付加価値化 ③行動様式の継続的変革と組織の筋肉質化	P.42

その他の取組み

SDGs	P.30	新規研究開発	P.46
-------------	-------------	---------------	-------------

新しい時代に幅広いステークホルダーの期待に応えてまいります。
創業者の想いを胸にSDGsへの取組みを加速します。



セイコーホールディングス株式会社
代表取締役会長 兼 グループCEO 兼 グループCCO

服部 真二

Withコロナ／Afterコロナに向けて

はじめに、新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方々、ご遺族の皆さまに謹んで哀悼の意を表すとともに、罹患された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

この新型感染症は、会社業績への大きな影響もさることながら、短期間で社会のシステムや人々の価値観にかつてないほどの大きな変化をもたらしました。まさに新しい時代の始まりと言えます。

当社グループは今こそ、創業者 服部金太郎の信条であった「常に時代の一步先を行く」という言葉を改めて胸に刻み、デジタル技術などを駆使した新たな取組みに積極果敢に挑戦してまいります。

特に、中長期的に取り組んでまいりましたお客さまの感性に訴えるマーケティング手法や、販売・サービスにおけるホスピタリティの向上を、デジタル空間でも発揮し、これまで以上にお客さまと緊密な関係を構築できるよう、新たな形づくりに取り組んでまいります。

ESG／SDGsへの取組み

当社グループの企業理念「社会に信頼される会社であること」は、創業者 服部金太郎が日々実践してきたステークホルダー重視の経営を連綿と受け継ぎ、社員皆が現在に継承してきたものです。

金太郎は1923年の関東大震災で焼けた修理時計約1,500個を無償で同等品に交換し、工場を再開後に従業員を再度雇用しました。震災直後の未曾有の混乱、そして自らが被った大きな損害の最中、お客さまに、そして社員へとその目線がぶれることはありませんでした。大災害への万全の備えを意識した石造りの建物、1932年に竣工した和光の時計塔から、銀座地域に正確な時刻を知らせるチャイムを鳴らしたのは、地域社会への貢献をも意識した

取組みと言えると思います。

グローバル社会や地球環境が抱える重要な課題は、新型コロナウイルスの影響でさらに拡大し顕在化しました。当社が持続的発展を目指すうえでは、リスク要因への対応に加え、社会・環境課題に果たすべき当社の役割を常に自問しながら、社会とともに歩みを進めていきたいと思っています。

当社グループの製品・サービスは、耐久性が高く、長く使えることを重視しており、省資源を実現させるとともに、ユーザーの皆さまに安心をお届けすることで、持続可能な社会の発展に貢献していく精神が深く根づいています。

SDGsのターゲットの一つに健康と福祉の提供が謳われ、このコロナ禍においては、人々の不安の解消も含めて体温管理の重要性が高まっています。セイコーNPC(株)では非接触型体温測定器向け赤外線センサモジュールの増産を開始しました。セイコーインスツル(株)では、感染症予防のためマスク着用が不可欠となった現場作業者の熱中症予防のため、腕時計型バイタルセンサの展開を加速しました。セイコーソリューションズ(株)では、体温測定機能付きのシステムタイムレコーダーを販売し、導入先企業の従業員出勤時に適切に体温管理ができる仕組みを提供しています。



関東大震災で焼失した修理預かりの懐中時計

CEOメッセージ

また、『“Thanks for your Courage” 命の鐘アクション』の趣旨に賛同し、新型コロナウイルス対策の最前線で戦う医療従事者の方々に応援するため、銀座・和光の時計塔で特別な鐘の音を鳴らすという活動も行いました。当社グループでは、店頭や各種媒体などお客さまとの接点、そして和光の時計塔など多くの方にご注目いただける当社のレガシーを積極的に活用して、社会へのメッセージ発信の役割も果たしていくことができると考えております。

経営理念「社会に信頼される会社であること」には、社会の役に立ちたいという思いとともに、社会に支えられて会社が成り立っていることへの感謝の気持ちが込められています。SDGsのターゲットは、解決に向けた社員の思いがあっても、一人ひとりには難しい課題かもしれません。しかしながら、社員が日々感じているその思いを汲み取り、積み上げ、拡げていく組織としての取り組みができれば、社会の役に立つ大きな力へと集約していけるはずで。当社ではその取り組みのため、ESG・SDGs推進室を新設しました。

セイコーウォッチ(株)では、視覚障害者の方が文字盤を直接触って時刻を判別する「触読式」腕時計のデザインを25年ぶりに刷新するプランが上程され、これを実行します。これからも会社の利益ばかりでなく、公益についても一人ひとりが考えるような会社でありたいと考えています。その実現のため、組織と人材の育成を進めてまいります。

近年、当社グループではシステムソリューション事業が、ウォッチ事業、電子デバイス事業と並ぶ中核事業に育ってまいりました。セイコーソリューションズ(株)を中心とするこの事業体は、社会課題の解決に貢献する様々な技術・サービスを有しています。経団連提唱の「Society 5.0 for SDGs」のコンセプトを実践し、より良い未来の創造に向けて、アライアンスやオープンイノベーションも活用しながら活動領域を広げてまいります。

CCO (Chief Culture Officer)として

私はこの6月より、代表取締役会長 兼 グループCEOに加え、グループCCOを兼任することとなりました。セイコーブランドの伝道師として、ESGやSDGsについての思いを含め、世界中の幅広いステークホルダーの皆さまを結びつけながら、当社グループが140年培ってきた企業文化を社内外に発信し共有化していくことがCCOの役割です。

文化や伝統は守るものでもありますが、同時に進化させるものでもあります。多くの社内外の人と語り合い、振り返り、いっしょに夢を見て、企業文化を新たに築き上げていくことで社内に新しい活力を生むべく取り組んでまいります。

SEIKOらしさと価値創造

SEIKOはこれまで正しい時間を提供することで社会の基盤を支え、社会の成長に貢献することを重要な存在意義としてまいりました。その歩みの中で、世界中の多くのユーザーの皆さまに愛されてきたと自負しています。電子デバイス事業やシステムソリューション事業など、事業展開した各分野においても、正確さ・精密さにおいて多くのお客さまの信頼を得てまいりました。



セイコーホールディングスグループメディア懇親会 2019

この長年にわたる取り組みをご評価いただき、2月に発表された『第32回 日経企業イメージ調査』で、「扱っている製品・サービスの質が良い」の項目で1位となることができました。当社グループでは品質への思いは全社員の隅々まで行き渡っており、品質においてはまったくの妥協を許さない風土があります。このような客観的なご評価をいただいたことで、全社員で喜びを分かち合い、さらに品質への思いを強くすることができました。

お客さまに育てていただいた品質、正確、精密といったイメージに加え、世界中のステークホルダーと心響きあい、感動を分かち合う存在となることを目指して、2014年にグループスローガン『時代とハートを動かすSEIKO』を制定しました。

各事業を通じてお客さまの期待を上回る製品・サービスを提供することはもちろんですが、スポーツや音楽といった人々の感動を生む瞬間を提供することにより、ワクワク・ドキドキといった感動をステークホルダーの皆さまと分かち合える会社を目指し、心の豊かな社会の実現にも貢献していきたいとも考えています。

世界中の人々の心に寄り添うブランドとして、多くのステークホルダーの皆さまの夢を叶え、満足をお届けし、会社の成長とともに信頼の輪を成長させていくことがSEIKOの進むべき道であると考えています。



時と時計の博物館 セイコーミュージアム 銀座

2020年度の飛躍

当社グループにおいて2020年度は、創業者 服部金太郎の生誕160周年、グランドセイコー誕生60周年や国産ダイバーズウォッチ誕生55周年に当たります。この記念すべき年に向けて、様々な施策を準備してまいりました。

まずグランドセイコー (GS) では、構想から設計開発まで長い年月をかけてきた2つの画期的なキャリアー「9SA5 (メカニカルハイビート 36000 80 Hours)」と「9RA5 (スプリングドライブ 5 Days)」をリリースしました。それぞれ独自の構造により、駆動時間の長持続化とともに、薄型化や低重心化による装着感の向上を同時に実現しました。この2つのキャリアーは、マニファクチュールとして世界の高級時計市場で戦っていくGSにとって、これからの10年間を見据えた画期的な機構であり、市場において強力な武器となりえると確信しております。



国産ダイバーズウォッチ誕生55周年

CEOメッセージ

そして、さらにその先を見据えた開発成果も、皆さまにお知らせすることができました。世界で初めてコンスタントフォースとトゥールビヨン機構を同一軸上で実現させ、メカニカルのGS史上最高の精度を実現した機械式時計のコンセプトモデル「T0(ティーゼロ)」の開発が、9月に発表に至りました。

また、製造拠点としては世界的にも稀な木造建築を取り入れ、自然との調和を目指すシンボルとして『グランドセイコースタジオ 雫石』を盛岡セイコー工業内に建設しました。隈研吾氏の設計による木立に囲まれたスタジオ内には、専任の時計師が組立・調整を行う専門工房とともに、ブランドの歴史、背景を知り楽しむことのできる展示スペース、名峰・岩手山を望むラウンジが併設され、自然との共生の中で生みだされるGSのものづくりを体感できる場所が生まれました。世界からのビジターに向けて我々の思いを発信していく拠点にしたいと考えています。

また、創業者 服部金太郎生誕160周年を機に、金太郎がセイコーを創業し育てた銀座から、セイコーブランドと時計や時間に関わる文化を発信していく「銀座2020」プロジェクトをスタートさせました。

その一環として、東京都墨田区にあったセイコーミュージアムを銀座へ移転し、『セイコーミュージアム 銀座』として新たにオープンいたしました。ここでは、セイコーのブランドストーリーや世界観を発信することに加え、世界

の時計の歴史を伝え、お子さま向けを含めたワークショップなどの開催も視野に、バランスのとれたミュージアム活動を行うことで社会貢献の一端を担っていくことを目指しています。

さらに銀座・和光の銀座四丁目交差点に面したショーウィンドウのイメージチェンジを行うとともに、2階和光ウオッチスクエアの中心に、GSをこよなく愛するオーナーの住空間に見立ててデザインした『グランドセイコーブティックフラッグシップ和光』を誕生させました。ライブラリーと名づけた空間には、GSを語る上で欠かせない、貴重なヒストリカルモデルを多数展示しました。オーナーの趣味空間をイメージしたラウンジでは、最新のブランドムービーやブランドブックなど、豊富なブランドコンテンツをお楽しみいただけます。

このように商品力の充実とともに匠の技や洗練された売場そして企業文化の発信の強化を図り、2020年度はGSをはじめとしたグローバルブランドを中心に世界の時計市場で大きく躍進する年になります。

新型コロナウイルスの影響で当初の計画から軌道修正を余儀なくされましたが、この時代の変化を的確に捉え、デジタルマーケティングやオンラインセールスに積極果敢に挑戦することで、世界中の多くのステークホルダーの皆さまの心に響く情報発信を進めてまいります。デジタルトランスフォーメーション(DX)を活用しながら、世界の時

計市場でGSとSEIKOの存在感がさらに大きくなっていくことに、ぜひご期待いただきたいと思います。

最後に、新たな10年を見据えた組織改革についてご説明いたします。

100年以上の歴史を持つウオッチ製造を担い続けてきた、セイコーインスツル(株)のウオッチ事業の設計・開発機能を、2019年4月にセイコーウオッチ(株)に移管し、さらに2020年4月、海外の製造子会社も含め製造機能をセイコーウオッチのもとに集約しました。製造と販売を担う中核会社同士が一体化し、一つの組織となることによって、よりスピーディな意思決定と人材の有効活用を実現させることで、さらに速まる市場変化への対応能力をもう一段、レベルアップさせました。

また、セイコーインスツルの研究開発・生産技術部門をセイコーホールディングス(株)へ移管し、その活動範囲の拡大によって、グループ全体の技術力向上を図ります。加えて、知財管理や、品質管理、調達企画、環境推進の機能もセイコーホールディングスへ集約することで、ESG・SDGs推進のさらなる活性化を進めてまいります。

これからも自らの強みに磨きをかけ、世界中のステークホルダーの期待を超える成果を実現し、皆さまからの信頼をより強いものにしていけるよう、誠心誠意取り組んでまいります。

これからのセイコーにぜひご期待ください。皆さまの変わらぬご支援の程お願い申し上げます。



世界初の機構を搭載した機械式時計のコンセプトモデル「T0 コンスタントフォース・トゥールビヨン」



グランドセイコーブティックフラッグシップ和光



変化の時代に進化を加速



セイコーホールディングス株式会社
代表取締役社長
中村 吉伸

はじめに

はじめに、新型コロナウイルスに感染された方々、また、感染拡大によって影響を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

Q. 2019年に発表した第7次中期経営計画の初年度の結果をどう捉えていますか。

A. 2020年3月期は2025年のあるべき姿に向け、「攻め」と位置づけた第7次中期経営計画のスタートの年でした。海外での事業拡大を加速するためのブランディング投資の強化やM&Aによる事業領域の拡大、そしてブランド価値向上に繋がる高付加価値製品・サービスの開発を進めた結果、ウォッチ事業ではブランドセイコー（GS）、セイコー プロスペックス（プロスペックス）、セイコー プレザージュなど中期経営計画で成長エンジンと位置づけたグローバルブランドが海外市場を中

心に堅調に拡大いたしました。特に米国でのGSの成長は目覚ましく、その取組みを一つの成功例として、他の地域にも広げてまいります。また、電子デバイス事業では、中期経営計画の基本方針「得意分野、成長市場分野の重点製品へのポートフォリオの転換」を進め、小型電池や水晶が順調に売上を伸ばしましたが、米中貿易摩擦などにより中国をはじめとするグローバルで市況全体が低迷したことで、プリンタ関連やオシレータ用ICの売上は伸び悩みました。一方、システムソリューション事業では中期経営計画の「事業の持続的成長と信頼性向上」という基本方針の下、人手不足の深刻化や国内の消費増税に伴うキャッシュレス化対応などを背景にしたIT関連や通信関連市場が好調に推移したことにより、電子契約ソリューションやアプリケーション性能管理ソフト、モバイル決済機器・サービスなどが順調に売上を伸ばしました。

しかしながら、2020年の1月の終わり頃から新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、世界中で経済活動が大きく制限されることとなり、当社にも大きな影響がまし

た。1月の春節後半から訪日観光客は減少し始め、3月になると国や地域をまたいだ移動が制限されたことからインバウンド需要は消失しました。さらに、世界の各都市でロックダウンが行われ、国内でも自粛ムードが高まり、国内外で多くの小売店や商業施設内の店舗が閉鎖や営業時間短縮などを行ったことで、ウォッチ事業や和光事業などの第4四半期の業績は大幅に悪化しました。BtoBビジネスでも、当社グループ海外製造拠点の活動が一部縮小されたほか、サプライヤーやお客さまの稼働状況が低下したことで影響が生じました。ただし、このような状況下でも、ここ数年多角化とストックビジネスの拡大に取り組んできたことによりシステムソリューション事業は安定的に業績を伸ばすことができました。

2021年3月期に入っても4月、5月は、国内で緊急事態宣言が発令され、海外のロックダウンも継続したことから、当社の事業はさらに大きな影響を受けました。6月以降は日本をはじめ海外の多くの都市でビジネスが再開されたことで事業も回復に向かいましたが、8月には東京や米国、ヨーロッパなどで感染者数が再び増加傾向に入るなど、新型コロナウイルス感染症についてはまだまだ予断を許さない状況が続いています。

Q. 新型コロナウイルス感染症の対応について教えてください。

A. 当社グループでは社員の安全・健康を最優先に考えています。新型コロナウイルス感染症への対応においても最も優先しているのは、社員をはじめとする関係者の安全・健康です。感染症の拡大の兆しが見られ始めた2月から、時差出勤、在宅勤務を奨励し、感染症の状況に応じてオフィスごとの閉鎖や全社員の在宅勤務を実施いたしました。保育園や小学校に通うお子さんのいる社員には臨時休園、臨時休校などで勤務できない場合は有給の特別休暇を付与するなどの対応も行いました。当初は、全社員が在宅勤務を行うためのインフラが整って

いませんでしたが、国内では緊急事態宣言が発令された4月までにその環境を整えました。もともと2020年に開催される予定だった東京オリンピック・パラリンピックに向けて、働き方の一層の多様化や業務の効率化を目指したプロジェクトを進めていましたので、新型コロナウイルス感染症がそのスピードを加速させる結果になりました。

また、事業の面からも新型コロナウイルス感染症は大きな変化をもたらしています。2020年はウォッチ事業にとってGS60周年、国産ダイバーズウォッチ55周年という記念の年で、年初から多くのイベントが計画されていました。しかしながら、この新型コロナウイルス感染症拡大により実際に多くの方にお集まりいただくイベントはすべて延期や中止にせざるを得なくなり、その結果、デジタルでの発信が大きく増加することになりました。

これまでアナログが中心だった高級ウォッチ業界においてもこれを機に様々なデジタル化が進むことになると考えられます。すでに当社でもGSが小売店とのコラボレーションでオンラインでの新製品発表会を行ったり、プロスペックスでもARを活用したプロモーションを展開するなど、今後はDX化をいっそう加速してまいります。また、事業のDX化が重要なのはウォッチ事業だけではなく、BtoBビジネスも含めた当社グループの全事業で取り組んでまいります。

With/Afterコロナの変化で最もビジネスチャンスが大きい事業はシステムソリューション事業です。システムソリューション事業では非接触、リモートといったキーワードを中心に新しい時代に生まれるニーズに応え、新しい価値創造を目指してまいります。



ブランドセイコーブティック ロンドン

Q. With/Afterコロナで外部環境が大きく変わりましたが、第7次中期経営計画に変更があるのでしょうか。

A. With/Afterコロナの中でも今の中期経営計画の方針や長期で目指していく方向性は変わりません。先ほどご説明したように、With/Afterコロナの中でも将来のあるべき姿を実現するために、各事業とも中期経営計画の戦略を着実に推進しています。ただし、今回の新型コロナウイルス感染症による変化に対応するためにはこれまでとは違うスピードが必要です。急速に変化する人々の行動、価値観にしっかり寄り添い、今までの概念に囚われない柔軟な姿勢で自分たちの果たすべき役割を捉えなおすことが急務になります。ニューノーマルにおける社会課題解決に貢献するために私たち自身が変化していかなければなりません。第7次中期経営計画で定めた「『選択と集中』を細部にまで展開しつつ、『未来』に向けたシナリオへの投資に積極的に取り組み、SEIKOブランドと精密技術、ソリューション提案力を武器に、持続的成長を確実に実現する」という基本方針に沿って、With/Afterコロナにおける新たな社会課題解決に取り組んでまいります。



Grand Seiko Corporation of America
オンライン商品説明会

Q. ESG、SDGsへの取組みを強化されていますが、今後の取組みについてのお考えを教えてください。

A. 昨年、統合報告書のメッセージで、「社会に信頼される会社であること」という企業理念のもと当社が考える企業の社会的責任（CSR）についてご説明いたしました。そして、併せてSDGsの取組みを拡大していくと申し上げましたが、今年グループ全体の機能強化を加速するためセイコーインスツルから品質管理、調達企画、環境推進などの機能をセイコーホールディングスへ集約いたしました。さらにセイコーホールディングスだけでなく事業会社にもESGやSDGsに関する専門部署を設け、グループ丸となって当社が貢献すべき社会課題の分析を深め、解決への取組みのさらなる拡大を図っています。また、新型コロナウイルス感染症対策として社内のオンラインミーティングなどの整備が進んだことで、情報の共有が従来よりも広く早く簡単に行えるようになりました。この環境を活用してたびたび社内セミナーを実施するなど、グループの社員一人ひとりのESGやSDGsに対する意識向上に向けた発信も強化しています。

社会課題の解決は企業にとって当然かつ重要なミッションであり、社会の発展と共に140年という長い歴史を歩んできた当社グループの創業の精神そのものです。当社はこれからもESG活動として、環境への配慮、社会課題解決への貢献、そして社会からの信頼を保つ体制づくりに意欲的に取り組み、企業価値の一層の向上を目指してまいります。



触読時計

Q. 中期経営計画最終年度に向けたメッセージをお願いします。

A. 中期経営計画スタート時には想定もしていなかった新型コロナウイルス感染症の拡大によって、私たちを取り巻く環境は大きく変化いたしました。しかしながら先ほどもお話ししたように、第7次中期経営計画の方針や長期的な方向性は変わりません。確かな情報のもと、With/Afterコロナの中でそれぞれの施策にスピード感をもって取り組み、今の環境に合った方法と最大限の効果を引き出すタイミングを見極めて、さらなる結果に繋げてまいります。まさにVUCA(Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性))の時代への対応ということになります。

また、これからの10年、当社が社会の中でどのような役割を果たしていくのか、さらに創業150年のその先にどのような未来を創造していくのかを真摯に考えることが重要です。そして、その未来を実現するためには多様化する社会のニーズに伴う多様な人材の育成と、一人ひとりが自ら変化に挑戦し活躍できる企業文化の創出が必要と考えます。

グローバルブランドの中にプロスペックスというブランドがあります。そのブランドフィロソフィーは大変参考になりますのでご紹介します。プロスペックスは厳しい環境下でもしっかりと機能する時計を目指して開発を続けてまいりました。そのプロスペックスのブランドフィロソフィーは



セイコー ダイバーズ55周年記念イベント
～Feel the Spirit of Keep Going Forward～

「Keep Going Forward」です。それは「ひとつの道を決め、ひたむきに挑戦を続ける姿勢」と「何を言われても、どんな困難にぶつかっても、ときに時間を忘れて、信じる道をぶれずに突き進むその揺るぎない信念」こそが大切であるというメッセージです。まさに今の時代に合ったものであり、当社もこのような姿勢と信念を忘れずに進んでいかなければなりません。

中期経営計画最終年度となる2021年、当社は創業140周年を迎えます。私たちは140年の歴史の中で築いてきた世界中のステークホルダーの皆さまとの信頼関係と、世界中で親しまれているSEIKOブランドをさらに強め、これからもステークホルダーの皆さまとともに感動を分かち合いながら成長を続けてまいります。



地球環境にやさしい新しいものづくりを目指して 新たに「グランドセイコースタジオ 雫石」をオープン



自然との共生を図り、持続可能で循環型のものづくりへ

岩手県雫石町にある盛岡セイコー工業(株)(盛岡セイコー)がウォッチメーカーに最適な場を求めてこの地に根を下ろし50年が経ちました。その全敷地の約3割が緑地であり、1000本近い自然林を有する環境を持ち常に季節のうつろいとともにあります。そして2020年7月20日、同社の雫石高級時計工房内に、グランドセイコーの機械式時計を製造する新施設「グランドセイコースタジオ 雫石」がオープンしました。新たに誕生したスタジオは木造建築のクリーンルームなど木をふんだんに使用した世界でも珍しい時計の製造施設で、雫石の美しい自然とものづくりの心を重ね、自然との共生のための様々な取り組みを行ってまいります。

※当施設は一般公開を予定しておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年10月現在、一般公開を見合わせております。予約受付の開始時期につきましては、グランドセイコー公式Webサイトにて改めてご案内いたします。

太陽光発電によるグリーン電力の利用促進

2020年7月、盛岡セイコーは、太陽光発電によるグリーン電力購入契約(PPAサービス)を締結しました。自社工場の屋根に設置した太陽光発電設備からのグリーン電力を製造に活用してまいります。当発電設備の年間予測供給電力量は、日射量が減って発電量が少なくなる冬の時期があっても、新たに設置された「グランドセイコースタジオ 雫石」の年間電力使用量を優に上回る想定です。

緑の都市賞「都市緑化機構会長賞」受賞

盛岡セイコーは2019年公益財団法人 都市緑化機構主催の「第39回 緑の都市賞」において、「都市緑化機構会長賞」を受賞しました。緑の都市賞は、緑の保全・創出活動に卓越した成果を上げている市民活動団体や企業等を顕彰し、地球にやさしい生活環境を創出することを目的とした賞です。社員自らが行う敷地内の適正な緑地管理や、社内外に向けた環境教育、コミュニケーションの活性化などの取り組みが評価されました。

持続可能なものづくりの追求

スタジオで生みだされる機械式時計は、ぜんまいが解ける際に生まれる力をエネルギー源とし、世代を超えて受け継がれていく、サステナビリティを象徴するプロダクトとも言えます。その思想は、全施設を通しての持続可能なものづくりの推進に結びついています。

- Reduce (発生抑制)、Reuse (再利用)、Recycle (再生利用) に努め、資源循環への貢献と廃棄物の削減を実現。
- 生産で使用した水は社内で排水処理を行い、環境負荷を抑制するとともに一部は再利用し資源を効率利用。
- 地球温暖化に対する取り組みとしてエネルギーの使用量をCO₂排出量で管理、目標値を設定し継続的な削減活動を実施。
- 自社開発の無線センサーネットワークシステム「ミスター省エネ」を製造施設内に設置し、温湿度・照度・電流を監視し、ものづくり環境の整備と省エネを同時に推進。



認証 (盛岡セイコーの取り組み)

2015年一般社団法人 いきもの共生事業推進協議会(略称ABINC)が運営する、生物多様性に配慮した緑地づくりに取り組む施設を評価・認証する「いきもの共生事業所®認証(通称: ABINC認証)制度」で工場版の認証としては第一号となる認証を取得しました。(2018年に認証更新済)



「グランドセイコースタジオ 雫石」特設Webサイト
<https://www.grand-seiko.com/jp-ja/special/studio-shizukuishi/>

ESG活動を通じたセイコーの社会課題解決への取り組み

「壊れない、長く使える、環境にやさしい」

環境に配慮したものづくりへの情熱と哲学で、
社会に役立つ優しい製品を生み続けています。

セイコーホールディングスグループ ESG活動／SDGs目標

当社グループは、「社会に信頼される会社であること」という企業理念のもと、社会と当社グループの持続的成長に向けて、環境への配慮 (E)、社会課題解決への貢献 (S) そして社会からの信頼を保つ体制づくり (G) に意欲的に取り組み、企業価値の一層の向上を図っております。

1.環境への配慮 (E)

全ライフサイクルにおける資源の有効活用およびCO₂排出量削減、廃棄物低減等に向けた弛まぬ努力に加え、自然環境維持に関する情報提供や人々の意識を高めるための活動に取り組んでおります。

2.社会課題解決への貢献 (S)

後発開発途上国を含む世界の様々な地域において、人々が心豊かな暮らしを送れるように幅広く社会課題の解決に取り組んでおります。

3.社会からの信頼を保つ体制づくり (G)

すべてのステークホルダーからの信頼の維持に向け、コーポレートガバナンス体制の強化推進とともに、あらゆる製品・サービスの品質に対する意識の向上にグループ全般にわたって取り組んでおります。



環境理念

セイコーは、地球環境を守ることが人類共通の最重要課題であることを認識し、良き企業市民として環境の保全に配慮して行動します。

環境方針

1. 環境目標を定め、計画的に実行して結果を確認し、継続的改善につなげます。
2. 日本国内と世界各国の環境関連法規、条例、および業界の取り組み事項を遵守し、環境汚染の予防に努めます。
3. 商品の製造から販売までの全ライフサイクルで、グリーン購入・環境に優しい製造方法・化学物質の管理・商品・梱包材・輸送方法などを通じて資源の有効利用と温暖化ガス・廃棄物の低減を図ります。このことにより生物の多様性保全にも貢献します。
4. 環境問題の動向と会社の環境方針を社員と共有し、環境活動への理解と参加を促します。
5. 環境問題に関する方針と活動を社外に発信して社会とのコミュニケーションを図ります。

ものづくりプロセスにおける環境に配慮した取り組み

製品開発段階からの環境負荷低減を意識したものづくり

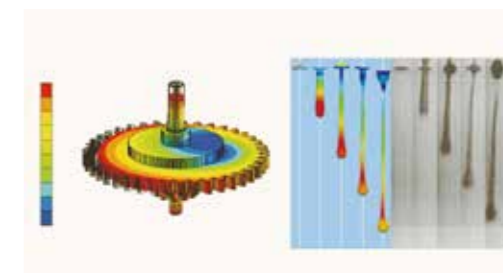
セイコーインスツル (株) では独自に定めた商品別5段階評価基準に基づき、各環境配慮項目を評価し、基準をクリアした商品を「SIIグリーン商品」として認定しています。2016年度から項目に「生物多様性への配慮」を追加し、環境配慮に対する評価を強化しました。

SIIグリーン商品の認定審査には、他部門の設計担当者も関与し、客観的で、広い見地から審査が行われます。これらの取り組みを通じて設計開発時点から環境に配慮したものづくりを意識しております。



最先端の技術を駆使した精密な設計により省エネ・省資源を実現

製品開発、設計段階において、部品材料の応力状態や成形部品の樹脂流動状態など、肉眼では見ることのできない物理現象をコンピュータシミュレーションで解析し、設計や製品性能の検証に活用しています。また、製品や部品そのもののシミュレーション以外にインクジェットプリンタのヘッドから吐出されるインク (液体) の流動解析をスーパーコンピュータと並列計算ソフトウェアを組み合わせた3次元解析を利用して、製品性能の向上や設計期間の短縮に加え、試作レスによるエネルギー・材料使用の削減などを実現しています。



設備機械の保守・再生により資源の有効活用と省エネを両立

老朽化した生産設備はオーバーホールを行い、消耗部品の修理や交換により継続的に利用し、設備の廃棄を減らし、資源の有効活用を行っています。また、併せて「レトロフィット」と呼ばれる現代の技術を古い生産設備にマッチングさせ、機能やメンテナンス性の向上・省エネ化を実現する取り組みも積極的に行っています。主要設備であるカム式自動旋盤における試作モデルでは、最大で20%程度の省エネ化が期待できます。



ESG活動を通じたセイコーの社会課題解決への取組み

長期使用・修理を可能にする設計思想

当社グループでは、「壊れない製品」、「長く使える製品」という基本的な製品開発の考えや、「匠・小・省」の技術理念をもとに、製品やサービスを市場に送り出してきました。その基本姿勢は、開発・製造の現場からお客さまが製品・サービスに触れた後まで一貫しています。時計ではメンテナンスして長くお使いいただくことを想定し、開発設計段階からメンテナンス性を考慮した製品設計を行っています。併せて近年高まるエコ意識・エシカル消費のニーズに応えるべく修理サービスの強化にも力を入れており、ものをより長く大切に使える社会の実現を目指しています。



定期的メンテナンスを行うことで半永久的に使うことが可能な機械式腕時計



最新設備と技術力を駆使した的確・迅速・高品質な修理サービス



モバイルサーマルプリンタ
様々な使用シーンを想定し、落下耐性と防滴性を考慮した頑強設計

さらに小さく、さらに省電力へ

当社グループは時計製造で培われた「ものを小さく設計し小さい力で動かす」という独自の強みを追求し製品開発を行ってまいりました。小さくすることでももちろん資源の無駄が防げるとともに、高密度実装を可能にすることで新たな資源を必要とせずに価値向上も実現させます。省電力への取組みではエネルギー効率の改善ばかりでなく資源の有効活用、廃棄物の削減にも結びつけております。現在、私たちが提供している小型精密部品は社会の様々な製品、サービスに実装され、お客さまの環境性能を向上することで省エネルギー、省資源に貢献しています。



HDD用部品、
小型ボールベアリング
(サーバー向け)



自動車用精密切削部品
(ABSブレーキ部品向け)



水晶振動子
(スマートフォン、
ウェアラブル等電子機器向け)



リチウムイオン2次電池
(監視カメラ等産業機器向け)

新たな社会課題の解決へ

当社グループは社会が抱える課題を広く捉え、人々が安心安全に暮らせる社会の実現のために製品、サービスを通じての貢献もできるような様々な開発等に取り組んでいます。一方で新しい社会課題は日々生まれてきます。そのような新たな課題解決に向けても業種、業界を超えた幅広いパートナー企業や団体との積極的なアライアンス、協業を行うことにより、できるだけ早く課題に対してソリューションを提供することを目指しています。



非接触型体温測定器向け
赤外線センサモジュール



体温測定機能付き
勤怠管理端末
「ESTEN TE-C800T」を開発



腕時計型バイタルセンサ
建設現場の熱中症リスク管理
などに活用

地域と協働した環境活動

当社グループは世界の製造拠点での資源の有効活用、CO₂排出量や廃棄物削減へ積極的に取り組んでいます。各拠点では水域や大気などへの排出については、現地の法規制値よりも厳しい自主基準を設定し管理することで、遵法を確実なものにしています。また事業活動を通じて関わる地域コミュニティやステークホルダーとともに地域の自然環境保全のための取組みにも力を入れています。



Dalian Seiko Instruments Inc.の取組み
最新鋭の工場排水処理施設への投資



CO₂削減に向けたエネルギー
マネジメントシステムを構築
(照明のLED化等)

Seiko Instruments (Thailand) Ltd.の取組み
タイの工業省が主催するGreen Industry ProjectにおいてLevel 3に認定



盛岡セイコー工業(株)の取組み
「グリーンウェイブ活動」
生物多様性に配慮した
緑地づくりへの取組み

社会貢献活動

震災からの復興を音楽で支援

2011年3月 東日本大震災の直後から、当社は被災地で復興支援コンサートを行ってきました。被災地の皆さまと支援者が心を繋ぎ絆を深める場として、2013年からは「わ」で奏でる東日本応援コンサート」を東北3県と東京で開催しています。2020年東京公演は、オンラインでライブ配信され、音楽の力で人々の心を繋ぎました。



音楽を通して豊かな心を育む

当社は、世界を舞台に活躍する講師陣がジャズ・ミュージシャンを目指す日本の有能な若者を指導する「Seiko Summer Jazz Camp」に特別協賛しています。

第5回となる2020年は、コロナ禍により従来の開催方法に代えて「Web Jazz Camp」としてオンラインレッスン動画を無料配信しました。世界を目指す若者たちの夢を応援し、次世代に音楽の力を繋げる取組みを、当社はこれからも続けていきます。



新型コロナウイルス感染症と戦う医療従事者を応援

銀座の中心に位置する(株)和光では、「Thanks for your Courage」命の鐘 アクション」の趣旨に賛同し、4月から6月までの毎日午後7時に時計塔で特別な鐘の音を鳴らし、さらに時計塔をブルーにライトアップすることで、新型コロナウイルス感染症と戦う医療従事者の方々への応援と謝意を示しました。

時計修理を行うセイコータイムラボ(株)と小型電池の製造を行うセイコーインスツル(株)は、検温需要の高まりを背景に電子体温計用のボタン型アルカリ電池が入手困難な状態となっていたことから、首都圏の医療機関や行政機関などに向けて、電子体温計用に代替可能な時計用酸化銀電池1万個を寄贈しました。

